

高額医療費疾患と通院実態に関する一考察 ー国民健康保険データベース（KDB）を用いてー

金沢大学	学生会員	○玉森	祐矢
金沢大学	正会員	藤生	慎
金沢大学	正会員	中山	晶一朗
金沢大学	フェロー	高山	純一
金沢大学	非会員	柳原	清子
金沢大学	非会員	寒河江	雅彦
金沢大学	正会員	西野	辰哉
金沢大学	正会員	平子	紘平

1. 研究の背景と目的

日本の少子高齢化は世界に類を見ない速度で進展しており，こうした少子高齢社会のもとで，高齢者人口の増加，労働人口の減少といったことから，我が国の医療費は増加の一途をたどっている．今後もこのような状況が続けば，日本の医療保険制度の維持ができなくなる．そこで，本研究では，国保データベース（KDB）を用いて，医療費を押し上げている疾患と通院実態を明らかにする．

国保データベース（KDB）を用いた既往研究として，防災の観点から玉森ら^{1, 2)}による介護認定度・疾患別の患者分布に関する研究や，医療費の観点から荻野ら³⁾による健康水準の地区別評価の可能性に関する研究がある．

2. 国保データベース（KDB）の概要⁴⁾

地域の現状や健康課題を把握するためのデータ作成は，これまで保健師等が手作業で行うことが多く，非効率であった．また，データが膨大なため十分なデータ分析ができず，地域全体の現状や健康課題を十分に把握することが困難であった．国保データベース（KDB）システムを活用することにより，作業の多くを自動的に行うことができ，より効率的で効果的な保健事業を実施することが可能となる．

3. 分析データ

本研究では，K市の国保データベース（KDB）のデータを用いて分析を行った．

国保データベース（KDB）システムより出力される帳票の中に「厚生労働省様式（様式 1-1）」があり，このデータを用いて分析を行った．このデータには，1ヶ月で基準額以上となった患者のデータが記されており，医療費が高額となっている疾患を把握できるため，このデータを用いた．今回用いたデータは，基準額を30万円以上としており，平成24年6月から平成27年9月までのK市における1ヶ月で30万円以上を要した患者のデータを用いる．また，このデータは40～74歳までの年齢のデータを取り扱っている．

4. KDBのデータ基礎分析

表-1に平成24年6月から平成27年9月までの月30万円以上を要する患者の主病名（大分類）の内，上位5種の疾患の医療費および医療費割合を示す．表-1より，主病名を大分類でみたときの月30万円以上を要する患者数の割合が高い上位3種の疾患は，「精神及び行動の障害」，「新生物」，「尿路性器系の疾患」であり，この3種の疾患で月30万円以上を要する者全体の患者数の半数以上を占めている．また，主病名を大分類でみたときの月30万円以上を要する患者の医療費割合が高い上位3種の疾患は，「精神及び行動の障害」，「新生物」，「循環器系の疾患」であり，この3種の疾患で月30万円以上を要する者全体の医療費の5割以上を占めている．

キーワード 高額医療費，国保データベース（KDB），通院距離，がん，少子高齢化

連絡先 〒920-1192 石川県金沢角間町 金沢大学

表-1 主病名を大分類でみたときの患者数及び医療費上位5種の疾患名とその患者一人当たり医療費

主病名（大分類）	患者数割合（％）	医療費割合（％）	患者一人当たり医療費（円/人）
新生物	17.05%	21.44%	802,623
精神及び行動の障害	26.89%	16.98%	403,021
循環器系の疾患	10.38%	16.62%	1,021,837
筋骨格系及び結合組織の疾患	6.17%	7.15%	740,376
尿路性器系の疾患	12.40%	10.24%	526,848

5. がん患者と通院距離

表-1 より、「新生物」の患者数及び医療費は高く、「新生物」の代表的な疾患は悪性新生物（がん）である。そこで、がん患者の通院している病院への距離を調べた。患者の住所は町丁目単位で求め、病院については病院名から Google Map を用いて調べた。図-1 に、がん患者と通院している病院との距離を示す。サンプル数は445 件であった。図-1 より、病院への距離が 0～5km の人は 174 名であり、4 割程度であった。病院への距離が 5～10km の人は 102 名であり、0～10km の人は 6 割程度であった。病院からの距離が 0～10km 以外に住んでいるがん患者で多かったのは、30～40km の人であった。病院からの距離が 30～40km だと、市内外の病院が多く、高速道路を使う必要がある場合も多い。

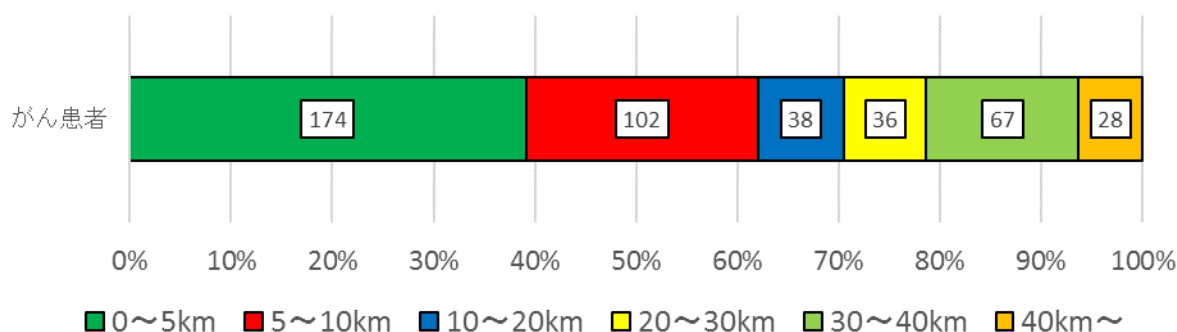


図-1 がん患者と通院している病院との距離

6. まとめと今後の課題

月 30 万円以上を要する患者数の割合が高い上位 3 種の疾患は、「精神及び行動の障害」、「新生物」、「尿路性器系の疾患」であり、医療費割合が高い上位 3 種の疾患は、「精神及び行動の障害」、「新生物」、「循環器系の疾患」であった。「新生物」、「循環器系の疾患」については、患者一人当たり医療費が特に高い。0～10km の人は 6 割程度であった。病院からの距離が 0～10km 以外に住んでいるがん患者で多かったのは、30～40km の人であった。がん患者には高速道路を要するような遠方の病院へ通院している人も少なくない。

今後の課題として、通院実態について医療費などとの関係を詳細に分析していく。

参考文献

- 1) 玉森祐矢ほか：国保データベースを用いた災害時要援護者の実態把握，地震工学研究発表会，2015
- 2) 玉森祐矢ほか：災害時要援護者の被災リスクに関する分析－国保データベースを用いて－，日本地震工学会 年次大会，2015
- 3) 荻野光司ほか：国民健康保険データを用いた健康水準の地区別評価の可能性について～富山県南砺市を事例として～，土木計画学研究発表会，2015
- 4) 国民健康保険中央会：国保データベース（KDB）システム活用マニュアル（Ver.1.2），
<https://www.kokuho.or.jp/hoken/public/hokenannouncement.html>